

令和2年度 第1回富山市高齢者総合福祉プラン
(高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画) 策定懇話会 議事録

1 日 時 令和2年7月28日(金) 午後1時～午後2時30分

2 場 所 富山市役所8階 大会議室

3 出席者 出席委員 10名 欠席委員 3名

【委員】野尻委員(座長)、福田委員、野入委員、高原委員、岩井委員、久世委員、高山委員、島田委員、菱田委員、河上委員
(欠席:相山委員、松原委員、藤井委員)

【事務局】酒井福祉保健部長、岸福祉保健部次長、高畠福祉保健部次長、宮崎福祉保健部参事(保健所保健予防課長)、横山保健所地域健康課長、片山介護保険課長、土地長寿福祉課長

4 次 第

(1) 座長選出

(2) 議 事

1. 次期(第8期)高齢者総合福祉プランの策定について
2. 高齢者を取り巻く現状について
3. 高齢者総合福祉プランの進捗状況について
4. 各種調査について
5. 次期(第8期)高齢者総合福祉プランの策定方針について

5 質疑応答

委員

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、介護サービスの利用を控える高齢者が増加した。引きこもりになる方も多く、状態が悪くなったり、認知症が進んだりした方も多くなった。また、在宅での介護も増え、家族間の関係が悪くなった方もおられた。

現行計画の重点テーマである閉じこもり予防ができなくなる状況の中で、高齢者の方が家でもできるような介護予防の仕組みを整えることができないか。例えば、子どもたちだとオンライン授業をやっているが、高齢者の中にはそのような環境が整っていない方もいるので、ケーブルテレビなどを利用して行うことはできないか。我々も認知症カフェの開催を控えていたが、少しずつ人数を減らしてなどの対策を取って再開している。コロナ禍での健康づくりについて、次期計画に盛り込むことはできないだろうか。

事務局

長寿福祉課では各地域包括支援センターに認知症カフェを含めさまざまな事業を委託しているが、開催方法には地域で温度差がある。新型コロナウイルス感

感染症の拡大を防ぐために、家から出ない方がよいという地域もあれば、このような状況であっても介護予防のために開催しなければならないと考える地域もある。

各地域包括支援センターで、開催回数や人数を減らすなどの工夫をして実施している。次期計画には、現場の実践例を参考にしながら、コロナ禍での健康づくりについて盛り込むことができればよいと思う。

委員

全国老人クラブの会合でも認知症の問題は大きなテーマとして挙げられている。2025年に認知症の人数が730万人になるというのは大変な問題だと思う。

また、地域包括ケアシステムの構築は順調に推移していると感じている。サービスを受けている人の多くは、安心して生活できていると聞いている。

委員

資料9ページ目の施設整備状況で、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」、「看護小規模多機能型居宅介護」、「特定施設入居者生活介護」の数が、計画数よりも少ないとの説明であった。

私自身、15年程度小規模多機能型居宅に携わっているが、「看護小規模多機能型居宅介護」施設は、1カ所で通いや泊まり、訪問を行っており、利用者を支えるのに最適な事業所であると考えている。

先ほど述べた事業所において、計画数よりも少ないとのことであるが、原因は何だと考えられるか。例えば、報酬が少ないことや人員の確保が難しいことなどが考えられるが、事務局はどのように考えているのか。

事務局

原因としては、3つあると考えている。まずは、人員の確保が難しいこと。2つ目に、報酬の評価面が経営の観点から難しいこと。3つ目に、事業所は地域ごとに公募しているが、そもそも公募数が少ないことが挙げられる。

委員

介護報酬は15年間で約10万円減少した。さまざまな加算があるおかげで最終的には経営ができています。しかし、加算をとるために、資格のあるスタッフを集めているが、資格のあるスタッフは人件費がかかる。加算をとってもスタッフへはなかなか還元できない。

例えば、富山市独自の加算を設けるなどの対応を取っていただくことはできないか。

事務局

他都市では独自加算を設けているところもあるが、富山市では現在設けていない。状況をみながら、今後研究していきたいと思う。

委員

よろしくお願ひしたい。

委員

資料16ページの調査で高齢者の方々は、病気や認知症になることに不安を抱いていると回答している一方で、資料17ページの調査では、週1回以上外出していない方がある程度いるという結果が出ている。

厚生労働省の調査では、シルバー人材センターの会員は非会員と比較し、さまざまなリスクが低いという結果が出ている。

シルバー人材センターでは、高齢者の方々に生きがい・健康づくりのために、分かりやすい声掛けをしていきたいと思っている。行政からは生きがい・健康づくりのためにどのようなアプローチをしていくのか。

事務局

シルバー人材センターの会員のように現役で活躍している方は、元気な方が多く、高い運動能力を維持している方も多い。さらに、会員の交流もあるため、頭も使い、うつ状態になりにくい。

シルバー人材センターは、定年後元気な方がボランティア的に仕事するというイメージであったが、昨今では健康維持の面もあるものと考えている。長寿福祉課としては、シルバー人材センターで活動することを運動に近い位置づけ、生きがいを感じながら健康づくりに取り組む施策の一つとして考えている。

委員

資料の表など一部小さくて見にくいものがある。A3にするなど対応を考えてほしい。

今回の懇話会は、事務局側は福祉保健部の担当だけであるが、事業を実施していくためには予算が大きく関係すると思う。予算担当である財政課の同席を求めてはどうか。

私自身公的な福祉施設で働いているが、建設費用に見合った建物でないと感じている。予算の適正配分のために、施設費用を見直し、施設職員の人件費に充てることはできないか。

事務局

資料については、細かいものはA3にするなど工夫したいと思う。

富山市の総合的な計画としては、トップに「総合計画」、その下に「地域福祉計画」、その下に個別計画である「高齢者総合福祉プラン」が位置づけられている。「総合計画」の中には、介護予防等に関する目標値を定めており、予算の内容についてローリングを行い、財政当局とも協議している。また、予算要求は、この個別計画を指針にして行っている。

施設整備を行う際には、国庫補助が入ることが多く、施設の計画書を国の担当者にも確認してもらっている。補助が絡む施設については、富山市が行う工事と同じ手順で入札と契約を行う。ただし、富山市と同じ手順を踏んでいるにも関わらず、予算が適切でないのではないかという意見がでたので、今後施設整備を行う際の参考とさせていただきたい。

委員

新型コロナウイルス感染症の拡大により、ひとり暮らし高齢者の中には、頼る人がいないとか買い物に行きたくないという人もいて、日常の生活に不安を感じた人も多かった。

福祉関係者やボランティアの中には、訪問しても玄関で話をすることを憚られると感じた人もいた。最近では、落ち着いて対応できるようになってきている。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大期には、地域のサロン活動が停止したり、飲食店が休業になったりして、テイクアウトのニーズが増えた。高齢者の中には、テイクアウトだけでは利用しにくい方もおられ、注文を受けて届けるという方法も広まった。

今後、新型コロナウイルス感染症が収まったとしても、注文を聞いて届けることや、御用聞きのような仕組みが継続できないかと思った。

事務局

計画の策定にあたり、何が必要かということは今までの経験上分かってきていると思うが、コロナ禍においては今までどおりに提供していくことは難しい。今までどおりのやり方ではなく、新しい提供方法を考え、計画に反映していくことが重要となる。

介護保険は給付費をみんなで分けると保険料になるという仕組みであり、富山市の独自加算を設けると給付費が上がり、その分保険料も上がってしまう。サービスの不足分を富山市の独自加算を設けることで補うことができるため必要であると市民が共通して理解をすることが必要となる。また、財源の問題もあり、税金を投入して、保険料を下げるという方法もある。こういった課題があることも提言していきたいと思う。

(以 上)